

泉州国際市民マラソン 第10回大会 2003年(平成15年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 10th CONVENTIONS



2月16日
天候: 雨
気温: 9℃
参加者数: 2,917人
完走者数: 2,243人
沿道人数: 22万人



本年度で10回を数える泉州国際市民マラソンは関西地方屈指の「国際市民マラソン」となり、泉州路に根付いた最大のイベントになった。エリートマラソンである大阪国際女子マラソンは、今年(平成15年)22回目を数えているが、幹線道路を閉鎖して行われる市民のフルマラソンは大阪ではこの大会だけである。10回大会ではじめて陸連登録者の部と一般市民ランナーの部とに分け大阪陸上競技協会の主管により、日本陸上競技連盟公認のお墨付き大会となった。3度目となる今回のコースは、ほとんどが市街地であることで声援が絶えまなく続き、走りやすいとの評判も行き渡り、3000人の老若男女が全国各地から集まった。

今回の招待選手は2時間10分08秒の記録をもつディクトンRCの砂田貴裕や城西大監督の平塚潤のほか、SB食品の渡辺康幸が目された。女子ではエスタ・ワンジロ・マイナ、7回大会優勝の安部友恵、浅井えり子など豪華な顔ぶれとなった。

レースは朝からの雨をついて前半から抜け出した服部元康(大塚製薬)が、第2位の荒川裕介(山陽特殊製鋼)を2分以上引き離し、2時間16分43秒の好タイムで初優勝に輝いた。第3位は大塚製薬の白石真が入った。

女子では、シドニーオリンピック、ケニア代表のエスタ・ワンジロ・マイナ(資生堂)がスタートから抜き出て独走、2時間42分32秒の記録で優勝に輝いた。第2位は9回大会優勝の松本晴美、第3位は1回大会優勝の45歳の黒崎しのぶが地元の声

援を受け、持ち前の頑張りをみせた。期待の安部友恵は故障上がり状態であったため、マイペースで泉州路を駆け抜けた。招待選手の浅井えり子は第6位だった。今年も75歳の山田敬戒や高石ともやらが元気な走りを見せ、22万人の観衆の声援にこたえた。

これまでの10年間の実績は、関係者の汗の結晶であり、「泉州にマラソン大会を」との思いが泉州の活性化と国際交流のまたとない機会を生んだ。

世話をして咲く花は美しい。「泉州はひとつ」のスローガンのもとに、往年のマラソン大会の老舗として醸成し、10年間の栄養を育みながら、春を告げる“泉州の華”として開花した。



大会前日のレセプションで特別招待選手が勢揃い

10周年の挨拶
ゴールドコーストマラソン大会・ワトソン会長が



《泉市種別優勝者》



泉州国際市民マラソン

「いい汗 かいだ」
3000人

75歳 286回目完走 山田敬蔵さん

大経路七五歳山田敬蔵さん、左足を引かずながらゴール。二百八十六回目のフルマラソン完走を果たした。...

左がけられ、二十五歳過ぎ、左足を引かず、残り五十分を走る。...



ゴールした最高齢ランナーの山田敬蔵さん

「いい汗 かいだ」
3000人

英語交差点... ホットな触れ合い、感激



メッセージを書いた軍手をはめ、一列に並んでランナーとタッチする児童たち(泉市協賛で)



完走し疲れ、冷え切ったランナーたちにとって温かい豚汁はなによりのごちそう



今年もだんじり囃子でランナーたちを応援

2003年(平成15年)2月17日(朝刊)



雨の中、走るランナーたちを声援



優勝 第10回大会

- 男子 大塚製薬
- 女子 資生堂

- 服部元康
- エスタ・ウンジロ・マイナ

